

ダイセンニセタテヅメザトウムシ

岡山県：留意

ザトウムシ目

*Metanippononychus daisenensis* Suzuki

環境省：該当なし

ミツヅメザトウムシ科

選定理由

県内で形態分化がみられる。

存続を脅かす要因

森林伐採

分布状況

中国地方東部（兵庫県宍粟市一宮町富士野峠から島根県仁多郡奥出雲町船通山～広島県道後山まで）の固有種。

おもにブナ帯以上の山地に生息するが、岡山県西部（高梁市備中町）では標高 300m 程度の低標高地でも生息がみられる。

生息情報

全体黄橙色で体長は 1.5～2.0mm 内外。幼体は 7～8 月に、成体は周年見つかるとする。本種の分布域の西端に位置する道後山にかけての地域の集団（道後型）は、それ以東の集団（基本型）と雄の生殖器形態で区別できる（分布境界では両者は中間型を介して移行する）。

特記事項

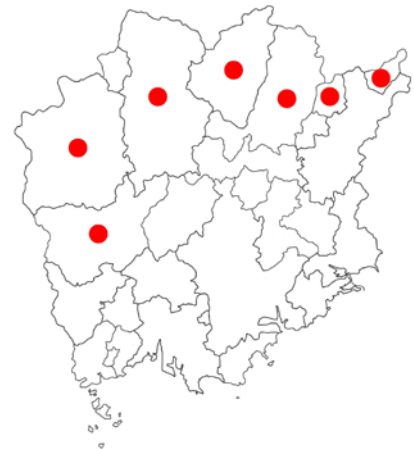
岡山県西部の集団は岡山県真庭市近辺以東の集団とは雄の交尾器形態などがやや異なる。

文献番号 139, 145

(鶴崎展巨)



撮影：鶴崎 展巨



オカヤマカニヤドリムシ

岡山県：留意

等脚目

*Entionella okayamaensis* Shiino

環境省：該当なし

カニヤドリムシ科

選定理由

岡山県をタイプ産地とする種であり、特に岡山県として記録しておく必要がある。

存続を脅かす要因

河川開発（護岸工事）、用水路改修、川相変化、海岸開発（護岸工事、干拓、埋立）、水質汚濁、産地局限

分布状況

岡山市旭川河口の汽水域上部（8km 上流付近）がタイプ産地である。現在のところ他の産地からは知られていない。

生息情報

河口部汽水域上流部に多産するクロベンケイガニ (*Chiromantes dehaani* (Milne Edwards)) に内部寄生する。雄は体長 2mm、雌は 4mm 程度で、雄や未成熟の雌は明瞭な体節と腹肢を持ち、典型的な等脚目の形態を示すが、雌は成熟すると体節を失い、寄主であるカニの器官と見分けがつかないほど変化する。雌は育囊からエビカリデア幼生を放出し、これが中間宿主となる橈脚類に寄生してミクロニスクス幼生に変態した後、クリプトニスクス幼生となって橈脚類から遊離し、終宿主であるカニに寄生する。先にカニに侵入した個体が雌に分化し、後から来た個体が雄となる。寄生されたカニの背甲は鰓域が多少盛り上がる。2001 年 7 月の旭川における調査では、本種の寄生率は河口から 3km 上流地点で 2.0～2.6%、8km 上流地点では 9.6～10.7%であったという。生活史や生態の詳細についてはまだ知られていない。クロベンケイガニは男鹿半島以南に普通に見られるが、本種の旭川以外からの明確な報告はいまのところ知られていない。

文献番号 25, 96, 131, 133

(福田 宏)

